

上野国府等範囲内容確認調査

「国府（こくふ）」とは、おもに奈良時代から平安時代のころに、全国各地を支配するためにもうけられたもので、現在にたとえるなら、群馬県にもうけられた県庁のようなものです。

上野国（こうずけのくに）（現在の群馬県の範囲）の国府はこれまでの研究によって、前橋市元総社町のあたりにあると考えられています。

文化財保護課（ぶんかざいほこか）では平成23年度から国府を探す発掘調査を行っています。まだ上野国府の中心は見つかっていませんが、これまでの発掘で国府とかかわりが考えられる建物の跡や土器などが見つかっています。

今年度は元総社小学校校庭、元総社小学校の西方の地域、国分尼寺（こくぶんにじ）の南側で調査を行いました。

○掘立柱建物跡（ほったてばしらたてものあと）の発見



線は建物の跡を示しています！

元総社小学校から西へ約400mのところでは、大小たくさんの穴が見つかりました。この穴は建物の柱を立てた穴と考えられ、大きいものは80cm前後もあります。ここでは少なくとも4つもの掘立柱建物があったと考えられ、そのうち2つは柱を立てた穴がほぼ重なっていたので同じ場所で建物が建てかえられたと考えられます。



☆柱の穴の断面図
石の上に柱をのせ、そのまわりを土でしっかりと固めました。

柱を立てた穴の中には平たい石を置いたものも見つかりました。これは石の上に柱を立てて、柱が下へ沈まがいようにしたためと考えられます。

掘立柱建物とは？

掘立柱建物は、穴を掘ってそこに建物の柱を立てて造られました。

当時の一般の人々が住んでいた竪穴住居と比べると大きく、太い柱を使って建てられたため、重要な建物だったと考えられます。

☆☆ 問い合わせ先 ☆☆

平成30年度の発掘調査成果

い・せ・きワールド in 前橋2019

前橋市教育委員会事務局文化財保護課／平成31年3月発行

住 所 前橋市総社町三丁目11-4

電 話 027-280-6511

FAX 027-251-1700

Eメール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp

平成30年度の発掘調査成果

い・せ・きワールド in 前橋2019



高さ約40cm、直径約40cmの須恵器（すえき）のカメが復元できました



砥石（といし）と炭化した木材



壁（かべ）の近くから重なって発見された坏（つき）



滑石（かつせき）で作られた紡錘車（ほうすいしゃ）

■火災が発生！～焼失した家屋～

（上細井中西部遺跡群No.1 4区11号住居跡）

八世紀頃（奈良時代）の住居跡

ここでは、炭化材や焼土を多く含むことから、火災のあったと思われる竪穴住居跡（焼失住居）です。内部には、焼けて炭になった屋根などの木材が残っていました。

また、カマドのまわりでは生活で使用していた土器類が多く出土しました。土器以外にも、糸をつむぐときに使う紡錘車や金属製品のメンテナンスに使った砥石も見つかりました。

前橋市教育委員会では、上細井中西部地区土地改良事業に伴い、埋蔵文化財（まいそうぶんかざい）の発掘調査を実施しています。

縄文時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡（たてあなじゅうきょあと）などが多数確認されました。はるか昔の人々が営んだ集落の跡などが見つかり、歴史が少しずつ解明されていきます。

平成30年度の発掘調査

元総社蒼海遺跡群

前橋市の元総社町は、古代には現在の群馬県庁にあたる、上野国府（こうすけこくふ）という役所があったと考えられています。中世には蒼海城（おうみじょう）が築かれて栄えました。現在、せまい道路を広げたり、まっすぐにしたりして街を整える区画整理を続けているため、多くの発掘調査が行われています。工事をすると遺跡（いせき）がこわされてしまうので、その前に発掘調査を行うのです。

平成30年度は12カ所の発掘調査を行い、古墳時代から平安時代の住居跡や水田跡、中世の蒼海城のお堀の跡などが見つかりました。写真の場所では、古墳時代から中世まで多くの住居跡や溝跡などが重なり合っていました。長い時代の中に次々と前の建物の跡などを壊して造られていくためです。

ここでは、奈良時代の建物の基礎の跡も見つかりました。この時代、一般の人々は竪穴住居に住んでいたため、基礎を固めた大きな建物は特別なものです。少しずつ違う土を入れ、突き固めて造られている様子が確認できました。



建物の基礎を突き固めるころ！



大きな建物の基礎

人骨や歯が出土した住居

元総社蒼海遺跡群(127)調査地全景



人の歯の出土状況

古墳時代の1つの竪穴住居跡からは、人の骨や歯がたくさん発掘されました。今からおよそ1500年前の人骨は、土で溶けてしまうため、群馬県内で竪穴住居跡から見つかることはほとんどありません。

主な時代区分

西暦	紀元前 10000	紀元前 200	300	600	710	794	1185	1338	1573	1603	1868	年
	縄文時代	弥生時代	古墳時代	あすか飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	明治～	
				古代				中世			近世	近・現代

遠見山古墳

昨年度に引き続き、総社町総社にある前橋市指定史跡の遠見山古墳（とみみやまこふん）の調査を行いました。

今年度は、前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）の○と□がつながる「くびれ部」を調査し、古墳をかざる見事な葺石（ふきいし）が見つかりました。

葺石は、人のこぶしから子どもの頭ほどの大きさの石を丁寧（ていねい）に積み上げています。また、古墳の中段では、墳丘（ふんきゅう）に立てた埴輪（はにわ）が出土し、古墳を造った当時そのままの状態が残っていました。

墳丘の南側では、幅10m以上の大きな堀が見つかりました。2年間の調査の結果、墳丘の長さが80m以上、堀まで含めると100m以上の大きさをほこる古墳で、有力な豪族（こうぞく）のお墓であったことがわかりました。



墳丘から出土した埴輪



古墳を飾る見事な葺石



遺跡名	所在地	主な時代
かみほそい ちゅうせい ぶい いせきぐん 上細井中西部遺跡群No.1	上細井町	縄文～平安
すいていこうすけこくふ あと 推定上野国府跡	元総社町	古墳・奈良・平安・中世
もとそうじやおうみ いせきぐん 元総社蒼海遺跡群	元総社町	縄文～近世
とみみやまこふん 遠見山古墳	総社町総社	古墳



墳丘の南側にあった大きな堀